

御成婚道標

匠瑗探訪

156

5月1日から新たな元号「令和」になりました。皇室に関係することでは、1915(大正4)年11月、京都御所での五穀豊穰を祈る「大嘗祭」に、豊栄村久方の平山八左衛門が千葉県を代表して献穀しました。県内からは生薑、鯉節、甘藷が献納され、「献穀光栄 豊栄村平山八左衛門」と当時の新聞で報じられました。

か所に道標があります。彫りが浅く判読に困難を伴いますが、正面は「御成婚記念 大正十三年 新支部」と読めます。1924(大正13)年1月に昭和天皇が御結婚され、それを祝って豊栄村新集落が「御成婚道標」とも言うべき道しるべを建てました。高さ95cm、幅19cmの角柱の正面に前述の文字が刻まれ、残り3面には「東 飯倉米倉 八日市場道」のように隣接する同村の集落名や他

町村名が刻まれています。同様の道標は亀崎区(同地区)にも1基見られ、当時の豊栄村で建碑の動きがあったのでしよう。新区の道標には「新支部」とあり、同村の在郷軍人会などが関わったのかも知れません。

なお、吉田小学校の門柱は1933(昭和8)年に平成天皇の誕生を記念して建てられました。御成婚記念の道標は、珍しい例と言えるでしょう。

(市文化財産委員会・依知川雅一)

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080



新区に建つ道標